

別記様式（第5条関係）

令和2年度第1回瑞穂町廃棄物減量等推進審議会 会議録

- 1 日 時 令和2年11月6日（金曜日）
10時00分から12時00分まで
- 2 場 所 瑞穂町役場2階 2-1会議室
- 3 出席者 会 長 鳥海勝男
副会長 根岸八千代
委 員 中野裕子 内山恵美子
吉川洋子 岡本日吉
田中宗喜 鈴木正明
池谷芳則 福島由子
事務局 住民部長 横沢 真
環境課長 野口英雄
ごみ対策係長 長島 修
ごみ対策係 若菜 貴大
- 4 欠席者 小峰芳行
- 5 議 題 (1) 令和元年度のごみ処理状況について
(2) 新型コロナウイルス感染症に係る対応について
(3) その他
- 6 傍聴者 0人
- 7 配布資料 令和2年度第1回瑞穂町廃棄物減量等推進審議会次第
資料1 瑞穂町廃棄物減量等推進審議会委員名簿
資料2 瑞穂町のごみ総量

- 資料 3 月別ごみ搬入量（前年度比較）
- 資料 4 事業系一般廃棄物の減量及び分別促進に係る取り組み
- 資料 5 新型コロナウイルス感染症に係る対応について
- 資料 6 その他・報告事項
- 資料 7 にしたまエコにゆうす

8 会議内容

(1) 開会 自己紹介（略）

(2) 挨拶（略）

(3) 議題

■ 議題 1 廃棄物の現状について

(事務局) 配布資料と冊子の確認（略）

(鳥海会長) それでは審議を開始致します。
議題 1「令和元年度のごみ処理状況について」、事務局より資料の説明を求めます。

(事務局) 資料 2～4 をもとに説明。

(鳥海会長) ご質問のある方はご発言をお願い致します。

(岡本委員) 資源物回収の中で、数が少なくなっている理由は何でしょうか。

(事務局) 資源物回収団体奨励事業については、回収する団体・子供会への加入率が減っており、減少傾向にあります。私どもも子ども会・連合会の総会などに参加させていただき、事業の紹介、ぜひ実施してもらいたいというような PR を行い、数を増やしていく努力をしています。

- (岡本委員) わかりました。団体の体制の問題もありそうですね。
- (鳥海会長) ほかによろしいでしょうか。
- (中野委員) 資料4の減量対策実施報告で、根気よく立入り指導を続けてくださったということで、ある人にとっては分別してごみ箱に捨てるということが当たり前のことでも、当たり前じゃないと考える人も結構います。そんな中、実際行動して立入り指導を続けたということ、後は、第三者が入って分別指導などを分かりやすく導いてくださったということは大きく変わるきっかけだったと思うので、素晴らしいと思いました。
- (鳥海会長) ありがとうございます。他にご意見ありませんでしょうか
- (田中委員) この事業系一般廃棄物の減量という指標に使われている数字は、搬入量の合計で示されていると思うのですが、実は私どもの事業をやっている都合もあって、すごい危険な指標だなという認識をもっています。何故かというと、これに縛られすぎてしまうと、実際は経済活動を押さえつける以外の何物でもないという状況です。うちに関わり合いのすごい深い市町村では、ごみ減量50%減量といって総量の50%マイナスを掲げてもう10年近くやっています。その結果論として、分母が増えるという指標が入っていません。大きな商業施設が出来上がってしまうと、ごみの量は自然に跳ね上がりますが、総量の話をしてしまうとその経済活動や商業施設誘致などが商業や工業の発展だという言葉をごみという

言葉が全否定することになってしまいます。できることならば、分母割した一事業あたり等々の減量をとという話をした方が、前向きな話ができいくと思います。例えばごみの量を半分にしましょうということで、ジョイフルと同規模の商業施設がもう3件くらいできたとします。そこで総量の半分と言うと、ごみを出しているところは半分どころではなく、7割カットや8割カットとなり今度は経済が止まってしまいます。その分母が増えていくという指標をこの比較対象資料の中に入れていかないと数字的な限界値以上の無茶をいう話になっていきます。今回はともかくとして、これから先のごみが減っているという話をさせていただく指標の中では、大体1件あたりこれくらい減ったとか、分母のファクターを入れていただいた方が数字の罫にははまっていけないのではないかなと思いますのでご検討いただけたらと思います。ありがとうございます。

(鳥海委員) ありがとうございます。中々難しい問題だと思うのですが、何かコメントなどありましたら数字的なものではなくお願いします。

(事務局) ご意見いただきましてありがとうございます。ただいまの意見に関して、私の方でも、おっしゃられたように事業が拡大すればごみの総量が増えていくというのはわかります。私共でやらなければいけないのは、一般廃棄物としての減量を目指すということです。例えば適正な処理、食品リサイクルにもっと力を入れていただくことや、産業廃棄物として処理す

べきものはきちんと処理していただくことです。ただごみが減ったということではなく、適切な処理をされるように立入り調査では今後とも心がけたいと思います。ご意見ありがとうございます。

(鳥海会長) 他によろしいでしょうか。

(根岸委員) 職員の方が悪臭の中抜き打ち検査をして、事業者に対してのアンケートを行い、長年の積み重ねで減量になったのはすごいことだなと思います。まだまだプラスチックが入っているということは家庭ごみと同じように繰り返し繰り返し周知して徹底することが大事かなと思います。資料の中で、「食品リサイクルを啓発し、実施した事業者の成果が表れ始めた」とあります。食品リサイクルとはどういうことなのかと少し伺いたいなと思います。

(事務局) 食品リサイクルとは、例えば生ゴミですとか、今まで一般廃棄物として西多摩衛生組合に搬入をしていたものを、食品リサイクルの方に回していただくような取り組みに力を入れている企業などもありますので、立入りの際には、そちらの方に回せるものは回していただくようなことをお願いしています。

(根岸委員) わかりました。ありがとうございます。

(鳥海会長) 他にございますか。なければ次の議題に入りたいと思いますがよろしいでしょうか。

■ 議題 2 新型コロナウイルス感染症に係る対応について

(鳥海会長) それでは議題 2 「新型コロナウイルス感染症に係る対応」について、事務局から説明を求めます。

(事務局) 資料の説明。

(鳥海会長) 事務局による説明は終了いたしました。ただいまの説明に対してご意見等ある方はご発言ください。

(中野委員) 資料6のノー（NO）レジ袋・マイバッグキャンペーンについてですが、これは石油由来のビニール袋を減らすことによって、海の汚染などを減らすことが目的でしょうか。実際、主婦目線でどうだったかという話ですが、100均などのごみ袋がずっと品切れ状態でした。なので買い物袋を家庭のごみ箱に入れてごみを出していた家庭は買い物袋がマイバッグになりましたが、結局100均などで買い物袋を購入し、それをセットして各部屋のごみを集めて捨てています。レジ袋は捨てて、それで購入してきたごみ袋をセットしていた家庭は、総量としてはごみの量は減っていると思いますが、レジ袋をごみ袋として使っていた家庭は、実際あまり減ってないと思いました。

(内山委員) 先日新聞に出ていたのですが、日本のプラスチックごみは年間900万トンだそうです。その内のレジ袋は20万トンで、全体の2%に過ぎないそうです。ほとんど回収されずに海に流失してしまうとのことですが、それは有料にすることによって使い捨てるプラスチックはできるだけ使わない方が良いという考えを皆さんに植え付けるために言っているのでしょうか。使わない方が良いと考える人が増えることを国としては狙っているようです。買わないきっかけになることを期待していると言っていましたが、どうなのでしょう。

(田中委員) 前回も少しお話させていただきましたが、レ

ジ袋がそのまま海に流れているということは基本的にはないです。海洋汚染の話は、どちらかと言うと遊びに行ったときに浜辺にごみを捨ててしまう不法投棄が問題の話であって、家庭から出るごみが直接海に流れるということは今の日本においては、ほぼほぼあり得ないことです。先程町の報告にもあったように埋立て自体が0%という状態ですから、町で少なくとも回収したものはそのまま全て地面に返されることなく加工・焼却されていくシステムを取っていますので、それがそのままマイクロになっていくというのはものすごくあり得ない話になっています。どうしても環境問題という話と今回のごみの話は連動しがちなのですが、実際は全く違う話です。マイクロプラスチックの問題をするなら公園や海・河川の管理をされている方の問題であり、家庭から出るごみが海洋汚染につながることはほとんどあり得ません。何が直接の問題になっているかというところ、先程の資料4にありました焼却量を減らすというところにキーワードが繋がってくるものです。それは家庭ごみも事業系ごみも焼却量を減らすということで二酸化炭素などを減らして環境を良くしていくというのがノー（NO）レジ袋・マイバッグキャンペーンに繋がっている一番の要因だと私は思います。

（内山委員） 公園に捨てられるごみはやはりみなさんスーパーとかでいただく袋ですよ。それは燃やしているのでしょうか。

（事務局） 今はおそらく公園にはごみ箱はありません。

例えば公の場に捨てられた不法投棄、いわゆるポイ捨てごみは環境課の環境パトロールの職員が町内を巡回してポイ捨てごみの回収を行っており、それにつきましてはリサイクルプラザに一時持込み、最終的には家庭ごみと同じように西多摩衛生組合で焼却することになっております。町の全てのごみを拾いきれているわけではありませんが、環境パトロールの事業で年間に回収されるポイ捨てごみの量は、概ね5トン程度です。地道ですがこういったものがないと、ボランティアで拾っていただけるような方がいらっしゃらない限りは、毎年5トン程度のごみが町内に溢れかえってしまうのかなという印象を持っています。先程のレジ袋の話で田中委員の方から話がありましたが、レジ袋をもらわないようになったが町のごみの収集ではいわゆるビニール袋を使うような案内をさせていただいているのはどうなのかという話もありました。現実的な問題としては中々難しいと思います。ただ近隣では一部の資源ごみについては、そのような袋を使わずに出すように案内しているところもあります。ただ今回このコロナ禍という中で、古繊維については瑞穂町ではビニールの袋に入れて出してくださいとご案内させていただいております。他の自治体においてはしばって排出する、ビニール袋を使わないという案内をしているところもあり、今回のことに限ってはビニール袋があることによって濡れずに済みました。実は古繊維をリサイクルする上で濡れてしまいカビが生えてし

まうと、それがリサイクルに大きな影響があるということが現実にはあります。コロナ禍に限らずですが、古繊維の収集日に必ず晴れているとは限らず、適正にリサイクルをするという意味ではどうしてもこういうものが必要になるのかなというところもあり中々難しい問題ではあるかなと思います

(中野委員)

ありがとうございます。数値が達成して持参率が31%だったところ、令和2年度の実績は約50%ですごいと思いました。ありがとうございます。田中委員に質問なのですが、焼却量を減らして二酸化炭素を減らすという意味で、ノー（NO）レジ袋・マイバッグキャンペーンをやっているのはプロの方から見て、意味があるのかどうか聞きたいです。

(田中委員)

意味があるかないかは微妙だと思います。レジ袋をやめる代わりにみなさんエコバッグを購入されると思います。エコバッグは100%全て優良に使われているかといえば、使われていないのが家にあり、もしかしたら使い勝手の都合上捨ててしまったエコバッグもあると思います。そういう意味でごみの総量が減っているかどうかというのは一概には答えづらいと思います。意識高くやられている方にはそういう意味で逆転現象が起こりうる部分なのですが、世の中にはスーパーで無駄にビニール袋をたくさんもらっていく方々がいらっしゃるのも現実です。レジ袋のいいところも多分にあります。例えば衛生面などです。レジ袋がたくさん使われていた時代は、みなさんご自宅にレジ袋入れ袋があったと思いま

す。それがやはりごみになっていた可能性があり、それがなくなっただけでも意味はあると思います。分別という言葉の中には、ものすごく大きな意味があると思います。レジ袋があるとどうしてもみなさんお弁当と箸とペットボトルの空を一つの袋に入れて捨てる人がたくさんいると思います。それができなくなったために、カンはカン入れに入れる。それはものすごく大きな意味があります。ですので、直接的な効果というよりそういう副次的な効果はあると思います。これからのごみを減らしていくためのキーワードは分別なので、そういう意味での効果はものすごく大きいと思います。

(中野委員)

ありがとうございました。

(岡本委員)

ポイ捨てごみに根本的に対処するならば、全町一斉清掃の回数を全国的に3倍4倍と増やしてポイ捨てごみの対策をしていくのが一番効果的なのかなと思います。

(池谷委員)

小中学校では、やはりごみ問題・環境問題は総合的な学習の時間というところで、取り組んでいます。ですからいわゆる学校教育でできるのはマナーの部分です。マナーとして、将来大人になったときにポイ捨てする人になってほしくないという教育はしていますが、中々現実問題では難しいと思います。私自身も車を運転しているときになぜこんなところにカンを捨てるのか、瑞穂町内でもポイ捨てを見かけます。先程驚いたのが、年間5トンになるということです。一人ひとりの行動が大事だと思いました。小中学生は大人の真似

をします。学校の中では一生懸命教えますが、一歩社会に出ると染まっていく部分もあるのかなと、残念に思うこともあります。ただ町の広報活動で、様々なデータを出していただいています。こういうのは小中学生に分かりやすい形で流れてきますので、様々な事業で活用させていただいています。最後に、どうしてもごみだと重さですので、これはお金に置き換えると子供たちも結構分かりやすいのではと思います。

(鈴木委員) ごみが出るのは仕方ないことなので、そのごみをどう処分するか、いい施設ができればいいなといつも思っています。ごみを減らそうというのも分かります。ごみをしっかり分別してうまくリサイクルできるような施設があればいいなと思います。今はリサイクルセンターに出したものも燃やしていけないようなものまで燃やしていて、黄色い袋に靴とかCDのケースが入っていて、前ならプラスチックだから燃やしてはいけないのに今では入れても大丈夫になっていて、なぜなのか不思議に思うこともあります。リサイクルに出したものが最終的には業者にいって、最後の最後にはどうなるのか自分にはわかりません。途中で結局ごみになって海に流れるのかなとも思います。その辺が自分には少し不思議です。

(鳥海会長) ありがとうございます。他にございますか。

(中野委員) ノー（NO）レジ袋・マイバッグキャンペーンのことで言いたかったことは、目的が達成できていないのであれば、ここに使う時間やお金ももったいないのかなと思いい意見を言わ

せていただききました。田中委員から伺ったように、なるほどということがあったので、得ることがあってよかったです。それと、今までもよかったと思いますが、長島係長が入ってからより良くなっているなど個人的に感じております。ありがとうございます。

(吉川委員)

まず初めに、事業者4社に立入り検査をしたというのはすごい大変なことだったと思うので、ありがとうございます。それと、レジ袋が令和2年では49.5%というのは、私たち主婦の立場からいうと80%くらいの数字が出ると思っていましたので、あまりにも低すぎる数字かなと思いました。それから、小さなメモ用紙でも紙の収集に出してほしいとのことですが、郵便物など住所が載っているものなどもそうした方がいいのでしょうか。また、新型コロナウイルスについてですが、5月号に掲載されていたのがあまりにも字が小さすぎると感じました。

(鳥海会長)

事務局から何かありますか。

(事務局)

様々な意見をいただきまして大変ありがとうございます。鈴木委員の方からお話がありましたリサイクルプラザですが、こちらは基本的に資源にできるごみをリサイクルプラザに持ち込んで中で処理をしまして、どうしてもリサイクルできないものについては、西多摩衛生組合で焼却しています。あとは、民間のリサイクル業者に持込み、そこでも最終的には非常に高い温度でガス化溶解を行い、建設資材などにリサイクルしています。レジ袋に関してですが、田中委員ご説明いただいてあ

りがとうございました。レジ袋という一括りの中で、有料化にされているのは化石燃料を由来としたレジ袋です。化石燃料を使わずに作るというところでもCO₂の削減を図るという狙いもあると思います。吉川委員からお話をいただきました広報紙の字については、今後周知する際には気を付けて行っていきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

(鳥海委員) ありがとうございます。それでは以上をもちまして次第3に関する審議を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

(事務局) 鳥海会長進行ありがとうございました。最後に根岸副会長よりご挨拶いただきたいと思います。

(根岸委員) 今日はみなさん貴重なご意見ありがとうございました。結論的なものはまだまだ課題がありますが、どうかこれからも審議会の委員として意識を持って生活していきながら次回またご意見いただければと思います。コロナ禍がまだまだ続くと思いますがみなさんお体に気を付けて元気でいていただきたいと思います。以上をもちまして閉会といたします。ご協力ありがとうございました。